

**2025年**

**青森県U12カテゴリー インテグリティ研修**



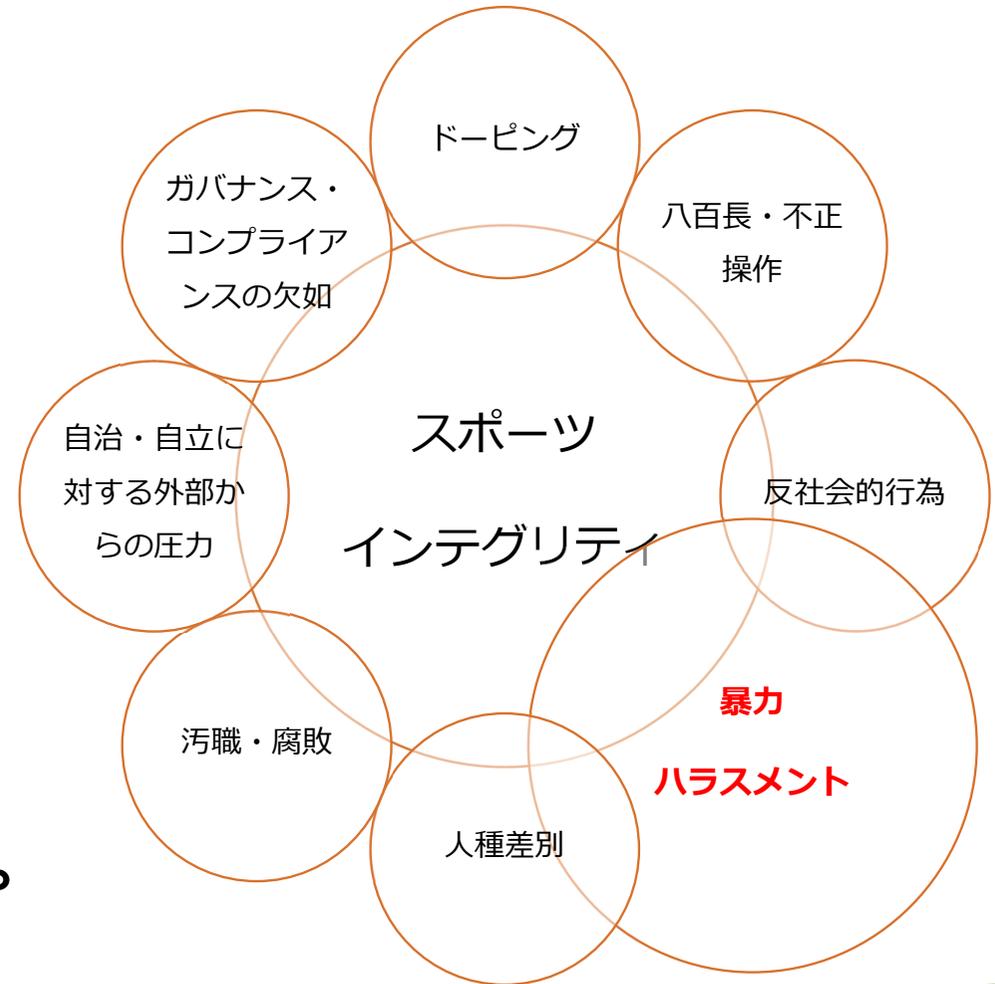
# 目的

1. インテグリティを周知をし、子どもたちが健やかに楽しくバスケットボールを行える環境づくりを行う。
2. 暴言、暴力の根絶に向けて指導者の意識改革を行う。
3. U12カテゴリーでは移籍理由として「人間関係」が多いため、改善していく必要がある。
4. チーム運営の参考となるよう【研修会】を実施。

# インテグリティについて

「インテグリティ」とは  
誠実さ・真摯さ・高潔さを表す  
言葉です。

一人一人が高い意識を持つことで  
規律、裁定案件を未然に防ぎ  
JBA指針の  
「クリーンバスケット、クリーン  
ザ・ゲーム」に則り  
暴言暴力根絶を目的としています。



## 2024年度青森県競技者・指導者登録者数

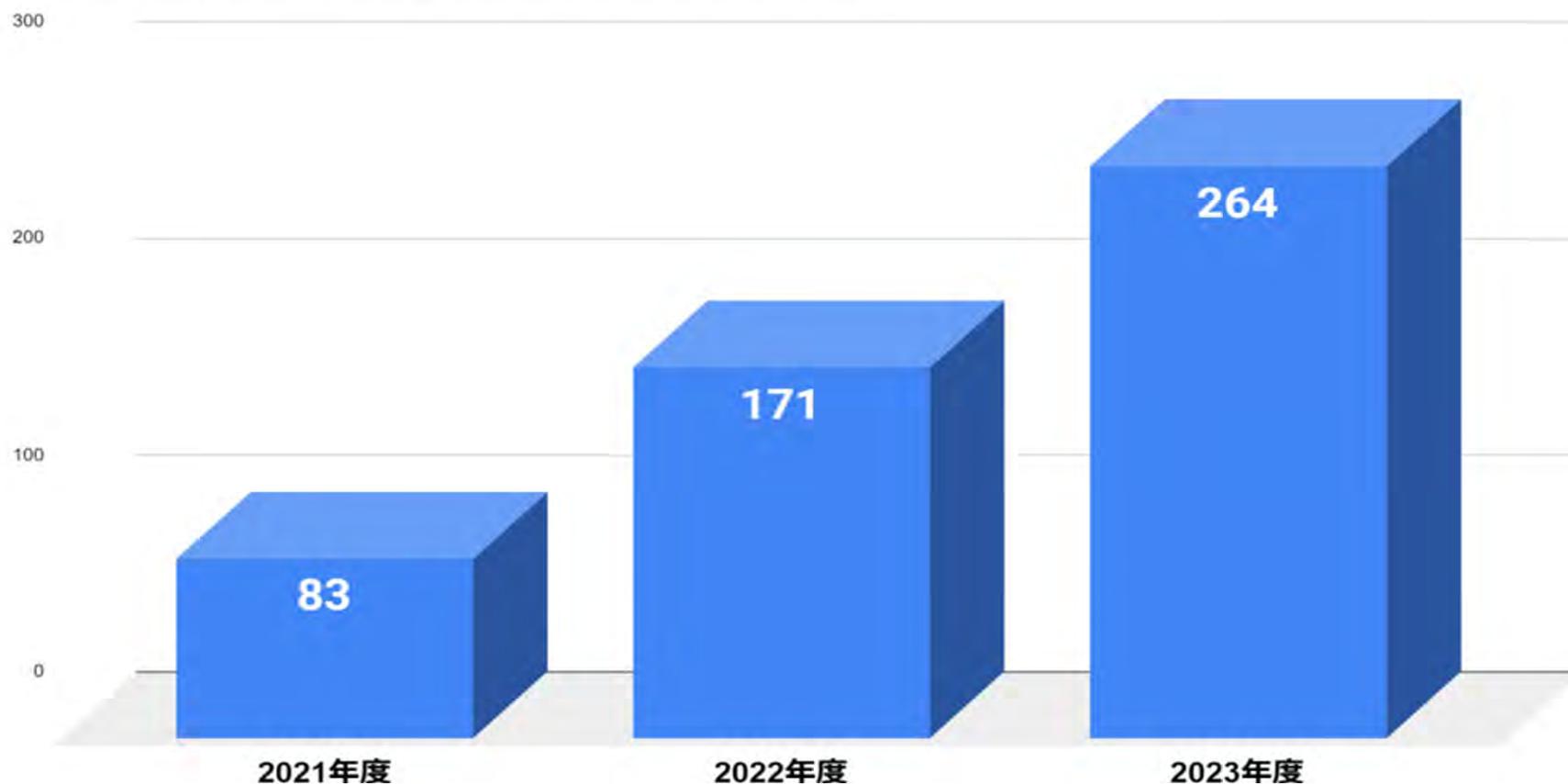
区分		R1	R2	R3	R4	R5	R6
選手（小学生）	男	1,922	1,763	1,687	1,735	1,847	1,897
	女	2,428	2,232	2,132	1,920	1,893	1,794
	計	4,350	3,995	3,819	3,655	3,740	3,691
選手（中学生）	男	1,616	1,294	1,482	1,394	1,492	1,427
	女	1,372	1,166	1,286	1,209	1,176	1,157
	計	2,988	2,460	2,768	2,603	2,668	2,584
選手（高校生）	男	1,161	926	1,038	1,018	944	1,021
	女	779	592	615	626	603	561
	計	1,940	1,518	1,653	1,644	1,547	1,582
選手（大学生）	男	138	118	125	96	123	116
	女	71	77	72	58	47	39
	計	209	195	197	154	170	155
選手（社会人）	男	145	66	90	65	73	76
	女	128	31	42	29	39	53
	計	273	97	132	94	112	129
指導者	男	1,238	1,314	1,098	1,515	1,511	1,045
	女	512	575	553	694	695	457
	計	1,750	1,889	1,651	2,209	2,206	1,502
合計		11,510	10,154	10,220	10,359	10,443	9,643
前年比			△ 1,356	66	139	84	△ 800

## 通報実績（各年度累計通報件数）

通報累計：264件【期間：2023年7月1日～2024年6月30日】

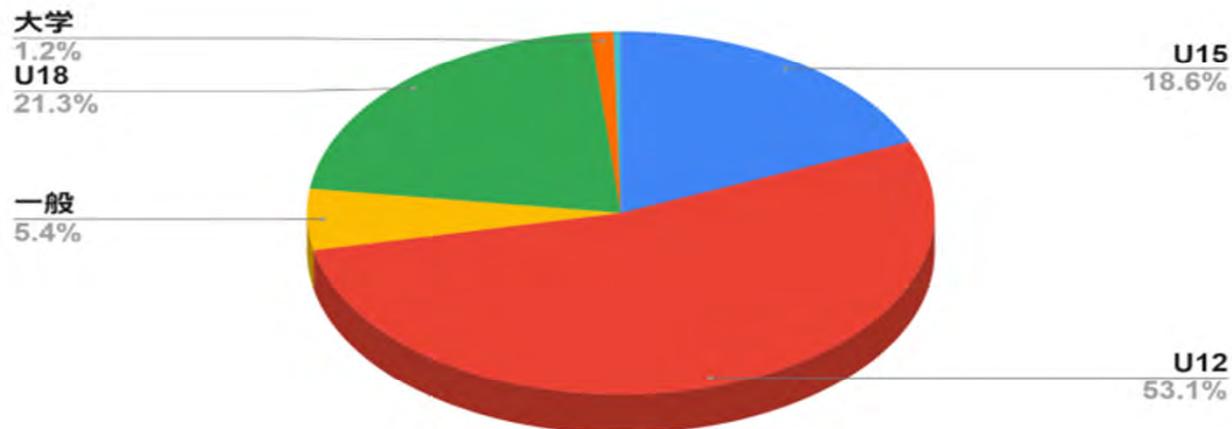
前年度（2022年）比 154%

暴力行為等通報窓口 各年度累計件数（2021年度～2023年度）

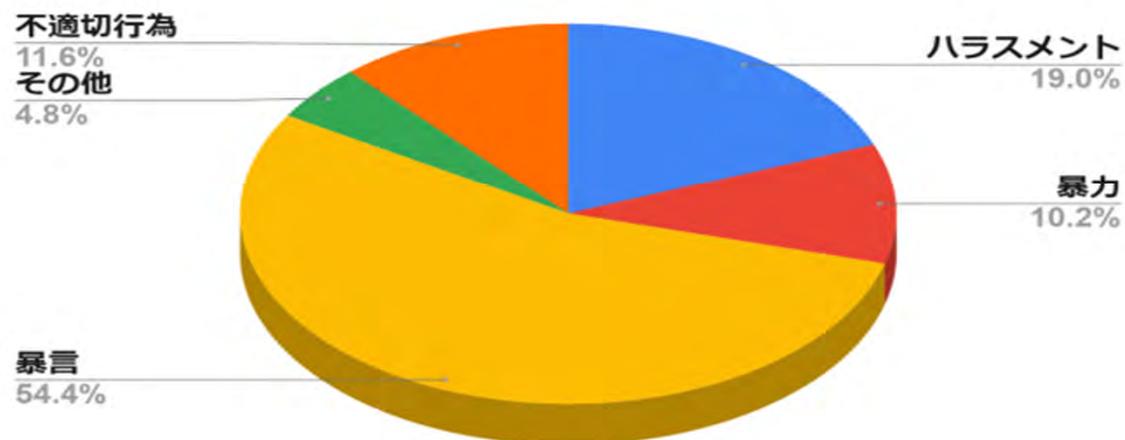


通報累計：264件【期間：2023年7月1日～2024年6月30日】

## 種別



## 分類



# 暴言暴力根絶へ向けて

～指導のつもりで暴言を吐いていませんか？～

人格を否定するような言葉は、特に気を付けなければなりません。  
 “自分は一生懸命指導をしているだけだ”と思っけていても  
第三者から見た場合、明らかに暴言だと認識される場合もあります。  
 自分が気づかないうちに、こういった言葉を発してないか、いままでの指導方法を  
 正当化せず客観的に見つめ直してみてください。

例

◇大きな声での指導◇

行き過ぎた大きい声は、選手を萎縮させ周りの目を意識しすぎてしまうこともあります。  
 大声を繰り返し、コントロールするようなことはあってはなりません。

◇人格、人権、存在を否定する言葉◇

「そんなこともできないのか」「へたくそ」などは人格否定の言葉です。  
 感情が先走った発言をしないように、注意してください。

# 暴言暴力根絶へ向けて

## U12育成世代で重要なこと

U12世代は勝利主義ではなく、バスケットボールを通じて元気になり、のびのびと取り組める環境作りが大切だと考えます。

子どもたちの「楽しさ」という気持ちを中心に、試合に勝つことだけではなく、上達して褒められたときや、仲間と一緒にプレーしているときなど、子ども一人一人の「楽しさ」を認め、見守ってください。

大人たちは、安心安全な暴言暴力のないバスケットボール環境の実現を、目指してください。

スポーツは嬉しさだけでなく、うまくいかない挫折も経験します。仲間との人間関係から生まれる絆、チームルールを守ることで身につく規範意識など、様々な経験をすることができます。1つ1つの成功体験が大切です。その数をより多く体験できるような環境づくりを心がけましょう。そしてその経験を少しずつ大きくしましょう。国際オリンピック委員会では「それぞれの成長度に合わせ、練習やトレーニングにアプローチしていくべき」と提言しています。

## ポジティブな意見【※一部抜粋】

### ▼褒める▼

- 良いプレーをした時は全力で褒めてくれ、たとえ失敗した時でも子どもたちのやる気を下げない声かけをしてくれる。一人ひとりの良い所、頑張ったら良い所も伝えてくれ向上心に繋がっていると思う。
- 良いと思う所はしっかり、子供を褒めてその子に上手くなってほしいと言う気持ちが伝わる。一生懸命に指導して頂いて感謝している。
- 褒める時は褒める、叱る時は叱るなど子ども一人一人の個性をみて言葉を選んでくれると感じる。そして、経験者の保護者がどうしても口出ししてしまう事があるが、指導者としてなああとせず角を立てないように相手保護者に話もしてくれてチームとして組織としてちゃんと出来てると感じています。安心して子どもを預けることの出来る環境に感謝しております。
- 失敗をしても先に少しでもできたことを褒めてくれる。それから直したほうが良いところを伝えてくれるので子ども達も失敗を恐れずにできている

### ▼コーチの指導方法▼

- 実際にコーチがやりながら分かりやすく説明してくれたり、バスケットに返事をくれたり、バスケットが好きで子どもも思いで常に一生懸命。バスケットをやめようとしていた娘が、バスケットが楽しい！中学生になっても続けたい！と言うようになりました。良いコーチに出会い親子で心から感謝しています！
- 保護者の集まる機会を定期的に設けてくださいます。その時にチームの方向性を話してくださいます。勝つ楽しさを知って欲しいけどバスケットボールって楽しい。中学生になってもやりたい。と卒団の時に思ってもらえるよう指導を心掛けています。とお話していただきました。信頼しているコーチで尊敬しています。
- 常にそれぞれの子供たちの良いところ悪い所、特性も踏まえた上で、的確に指導して下さっています。嬉しい時楽しい時は全力で一緒に喜び楽しむ、叱る時はしっかり叱り、かつフォローもしてくれます。誰にでも自慢できる最高のコーチ陣だと思います。
- 勝ちだけにこだわらず、細かく教えてくださります。人数が増えて色々な意見が出ても、(例えば、もっと勝てるようになるための練習をしたらいい、練習日を増やした方がいい、など)、勝ってほしいと思う保護者の意見に惑わされる事なく、学校家庭の次にバスケットなので学校や家庭の行事を優先にと言ってく下さり、有難いし感謝しています。指導の中でも子供達それぞれの個性も考えて指導して下さるのでいいと思う事ばかりです

## ポジティブな意見【※一部抜粋】

### ▼コーチの人間性▼

■まず大前提として子ども達はコーチが大好き。尊敬、憧れであり、コーチの言葉ひとつでやる気になり、自信になっている。先日もオスグッドの息子が3週間程練習を休んでいて、痛みよりもメンタルが落ちていたことにコーチが気づいてくださり試合に出るように親の私がいっても頑なに拒否していた息子は、実際コーチの言葉がけでやる気になり、自己新記録更新の得点を決めることができ本人の大きな自信に繋がった。感謝しかない日々です。岩見沢少年団に入団して半年ですが仲間にも恵まれ、コーチの方々にも恵まれ、感謝しております。

■子供達ひとりひとりの事を考えてくれていて、みんなひとりひとりに声をかけてくれている。(例えば、元気がなければどうしたのか？と声をかけたり、保護者に聞いたりしている) また、保護者との信頼関係も強く、何でも言える関係性です。子供達もコーチの事が大好きで、練習も本当に楽しくやっている。コーチ達には感謝の気持ちしか無いです。

■失敗を恐れずチャレンジしなさいと子供たちの背中を押して下さり、子供の成長を一番に考えてくださるところ。その子が出来ることをやらずに手を抜くと叱ることもあり、一人一人のことをよく見ていただいていると思う。

■少ない練習時間の中でも質を高めて練習をする工夫や働きかけをして下さっています。決して強いチームではありませんが、勝利至上主義ではなく、今の子供たちに必要な自主性やバスケットを楽しむ経験を重要視して下さるので、とても信頼しています。

■全てに感謝しています。5年生に他チームから移籍して、練習に行くたびに、子どもに合った声をかけてもらって、毎回、こういうアドバイスをしてもらったと、子ども自身が話してくれます。いつも、うちの子だけじゃなく、子どもたちみんなに、愛情を持って接してもらって、時には、同じ子どものように、バスケットを楽しんでくれるコーチ陣の方たちに、感謝です。

■丁寧な言葉使いと子どもたちがバスケットを好きになって欲しいと思う優しさで、1年から6年のバスケットに対する温度差のある子どもたちをまとめてくださっていると思い感謝している。保護者からの信頼も厚いと思うし、自分も会の責任者として支えていきたいと思えるコーチに出会えました。

■練習、試合の時と練習後で切り替えていて、子ども達も話しやすく、一緒に遊んでくれるので、コミュニケーションが上手くとれていると思う。そのおかげで、コーチ達も子ども達の性格などがわかりやすくなっているんだと思います。

## ポジティブな意見【※一部抜粋】

### ▼バスケット以外の規律に関する指導▼

- 礼儀礼節を教えて、今の世の中の怒らない甘い環境も考慮しつつ、サボったり選手が悪質な行為をしたときには厳しくして下さり、とても満足しています。
- 礼儀などをきちんと教えてくれる。質問にはきちんと答えて、個別にアドバイスをくれたりする。積極的に打ち解けようとしてくれている。
- 人間的な成長を第一に優先している。礼儀や整理整頓、宿題が提出できない子は練習に参加できないなど私生活や学校教育との両立を促している。またバスケットボールに熱を入れて取り組む、勝つことを真剣に求めて練習に取り組むことによって、勝った時の喜びや負けた時の悔しさなど大きくはねかえってくることを経験し、子どもたちが努力することの有意義さを実感できる教育をしている。また、バスケットを好きになってもらいたい、人生を通してずっとバスケットに関わってほしいという想いで指導している。
- 親から教えることが出来ない社会で生きていくために必要な事を教えてくださっています。整理整頓や挨拶、他人からどう見られるか、目上の人との接し方などバスケット以外を教えてくれている事に大変感謝しています。バスケットについては、技術はもちろんのこと、団体競技で重要なことをしっかり教えてくださっています。
- バスケットも大事だが、家族や学校の行事も大切にすると、家族行事があるときは、優先して休んでよいと言ってくれているところ。また、試合では、勝つことも大事だが、楽しむこと、そのために応援やバスケット以外のことも（礼儀や仲間を大切にすることなど）指導してくれる。

### ▼選手の主体性を重視▼

- 全部コーチの指示通りにプレーするのではなく個人個人で考えさせてプレーをさせるところ
- 練習内容を掲示して、選手が主体性を持って動けるよう指導している。試合のDVDを作成し、勉強するよう促してくれる。
- 子供達に考えさせたり質問させたり子供だけで話し合う時間を与えたり。また、チームメイトに対する声の掛け方や感情の表現の仕方まで仕方まで気にかけてくれている。
- 子供の主体性を尊重し、勝利だけを重視しない考えであること。楽しく子供の目線で指導をおこなっていること。

## U12 カテゴリー登録運用細則

(目的)

第1条 この細則は、公益財団法人日本バスケットボール協会（以下、「JBA」という）基本規程の第3章 所属団体、第4章 競技者、第5章 登録および移籍に基づき、U12 カテゴリーにおける登録の運用に関して必要な事項を定める。

(対象チーム)

第2条 この細則の対象となるチームは、JBA 基本規程 第3章 所属団体、第2節 加盟チームに定める、加盟種別がU12（以下、「U12 カテゴリー」という）のチームとする。

(対象競技者)

第3条 この細則の対象となる競技者は、登録年度の4月1日時点で12歳未満の者とする。ただし、過年齢であっても小学校に就学している競技者の登録は認める。

(登録の条件)

第4条 U12 カテゴリーのチームに登録する場合は、次の1.2.の条件をともに満たすこと。

1. 競技者の主たる居住地から当該チームの主たる活動場所まで安全に無理なく集合して活動し、活動後は安全に無理なく帰宅できる範囲のチームであること。
2. 競技者の移動中の安全の確保について、当該競技者の保護者が責任をもって行える環境であること。

(雑則) 本細則の改廃は、アンダーカテゴリー部会を経て部会長が行う。

(附則) この細則は2019年4月1日より施行する。

# 移籍について

- [JBAU12カテゴリー移籍ガイドライン](#)に則った手続きをお願いします。
- ※県協会からの移籍承認連絡前に、TeamJBAで申請を行っても移籍完了と認められません。
- ※移籍の承認にはお時間がかかります。

～下記ガイドラインからの抜粋 承認の目安～

移籍申請書 受付期間		結果通知（目安）	TeamJBA 登録手続き
4月～1月	各月 1日～15日	申請翌月の1日頃	承認後、原則 14日以内
	各月 16日～月末	申請翌月の15日頃	承認後、原則 14日以内
2月～3月	2月 1日～3月 31日	翌年度の4月 15日頃	承認後、原則 14日以内

# 移籍について注意点

- U12カテゴリーでは同じ環境で継続的に育成されることが望ましいが、勝利主義により移籍を行う事例がある。強化を目的とした移籍は本来認められないため、人間関係を理由として意図的に移籍申請を行うことがある。
- 指導者が保護者に対して「トラブルが起きた事にすれば、移籍ができる」とうようなアドバイスを行っている。
- 移籍承認申請は、ガイドラインに沿って遂行しているので「〇〇の大会に出場したいので早く承認して欲しい」や「今回は特別な処遇をお願いしたい」等の個別対応は行っていない。
- 移籍元からの承認をもらうのが億劫という理由で、漢字を一字変えて二重登録をすり抜け、登録されている事例があった。「例：澤→沢」
- 一度、競技者登録した選手はずっと同じIDを使用して登録を行う必要がある。U12カテゴリーの移籍のみならず、U15カテゴリーへ上がる場合も同じIDとなるので、チーム責任者のみならず、競技者も必ず自身のIDを把握していること。



## U12 カテゴリー移籍運用細則

### (目的)

第1条 この細則は、公益財団法人日本バスケットボール協会（以下、「JBA」という）基本規程の第3章 所属団体、第4章 競技者、第5章 登録および移籍に基づき、U12 カテゴリーにおける移籍の運用に関して必要な事項を定める。

### (対象チーム・対象競技者)

第2条 この細則の対象となるチームおよび競技者は、U12 カテゴリー登録運用細則第2条および第3条に定めるチームおよび競技者とする。ただし、U15 カテゴリーのチームに所属する、登録年度の4月1日時点で10歳以上の競技者が、U12 カテゴリーのチームに移籍する場合は、この細則の対象競技者とする。

### (移籍の定義)

第3条 U12 カテゴリーにおいては、これまで登録していたチームとは異なるチームに登録することを移籍とする。

1. U12 カテゴリーのチームに登録している、登録年度の4月1日時点で10歳以上の競技者が、U15 カテゴリーのチームに移籍する場合は、この細則の第4条は適用しない。
2. U15 カテゴリーのチームに登録している、登録年度の4月1日時点で10歳以上12歳未満の競技者が、U12 カテゴリーのチームに移籍する場合は、この細則を適用する。

### (移籍の条件)

第4条 この細則の対象となる競技者の移籍は、次の1.2.にあげる「特別な事情」があれば認める。

1. 転居
2. 人間関係等のトラブル

### (移籍の回数)

第5条 移籍の回数制限は設けない。

### (移籍の承認)

第6条 U12 カテゴリーにおける移籍の承認は、以下の通りとする。

1. 移籍の承認は移籍元チーム及び移籍先チームの所属する都道府県協会が行う。  
但し、移籍承認者がU12 カテゴリーのチームの関係者または競技者の関係者である場合は、都道府県協会が別途移籍の承認を行う者を定めること。

### (移籍の申請)

第7条 移籍の申請は、次の通りとする。

1. 移籍を申請する者は、「U12 カテゴリー移籍申請書」に必要事項を記入し、TeamJBA（会員登録管理システム）を通じて移籍申請を行う。
2. 都道府県協会は、移籍の申請を受理してから原則14日以内に移籍の可否を行う。

(雑則) 本細則の改廃は、アンダーカテゴリー部会を経て部会長が行う。

(附則) この細則は2019年4月1日より施行する。

2023年7月1日一部改定



## U12 カテゴリーチーム運営基本指針

### ■ 目的

チームを取り巻く環境の変化に伴い、チーム運営の在り方を見直すことが求められています。健全なチーム運営に資することを目的として「U12 カテゴリーチーム運営基本指針」を策定しました。

運営スタイルが現在の倫理や価値観と相違しているものや想定していなかった事案が原因で、チーム内の軋轢に発展するケースが見受けられます。このような状況を未然に防ぎ、健全なチーム運営を行うために、各チームそれぞれの立場から時代に即した見直しを図られますようお願いいたします。

### ■ 理想的なチーム作りと運営方法

理想的なチームとは、各種トラブルを回避し、子どものよりよい成長のために活動するチームです。

理想的なチーム運営とは、規約や活動方針を時代に即し、見直し、指導者と保護者が十分にコミュニケーションをとりながら諸問題を未然に防止することに加え、子どものよりよい成長のために協働することです。

チーム作り・運営を行うために、チーム規約に則り、様々な事項について共通理解を図りながら、共通行動を必要とします。細かな確認事項や協議事項に対し、合意形成を図りながら運営することが最も重要です。そのために、チーム内で「責任者（代表者）」を明らかにし、子どもの健全育成に向けた視点でチーム運営をすることが重要です。

また、チーム内の「責任者（代表者）」とは、チームの理念や目標、育成マインドに基づく指導のあり方、保護者の関わり方などチームの運営全般において、意思決定に向けた話し合いなどを調整し、意思統一をできる者です。

なお、TeamJBA（会員登録管理システム）におけるチーム責任者は登録担当者の意味合いで使われており、このチーム運営基本指針で示す「責任者（代表者）」とは意味合いが異なります。

### ■ チーム運営における基本的な確認事項

1. 年度末もしくは年度当初に年 1 回総会を開き、以下のことを決定します。
  - (1) チームの運営基本方針
  - (2) チーム責任者（代表者）
  - (3) 保護者会代表ほか運営体制
  - (4) 決算・予算
  - (5) 年間活動計画
2. チームとして意思決定を要する場合は、チーム責任者が中心となって意思統一を図ることとします。
  - (1) 指導者と保護者が十分にコミュニケーションをとりながらチーム運営を進めること。
  - (2) 話し合いを持つ場合には記録をとること。



## ■チーム規約の作成

チーム規約とは、チームの組織や運営についての根本的な規則を文書化したものです。

チームの指導者や保護者が共通認識をもち、円滑に活動をすすめていく上で非常に大切な役割をもつことから、規約の作成にあたっては以下の内容を網羅することが重要です。

※チーム規約の作成は、2024年度から推奨とします。

### <チーム規約項目>

- (1) 名称・所在地
  - チームの名称
  - 主たる活動場所（市区町村など）
- (2) チーム理念（活動方針）
- (3) 入会・退会方法
- (4) 会計
- (5) 組織体制・役員
- (6) 会議
  - 総会
  - 役員会
  - 臨時会 など

## ■登録にあたって

チームを作るためには、チーム加盟、競技者登録、指導者登録、会場確保、備品購入などが必要になります。

チーム加盟・指導者登録・競技者登録については、インターネット上で「TeamJBA」を通して手続きを進めます。加盟・登録とは、日本の「バスケットボールファミリー」の一員になることであり、日本バスケットボール協会（以下、JBA）や都道府県バスケットボール協会が主催する大会や講習会、イベント等に参加する権利を得ることです。

全国から集まった加盟・登録料を、日本のバスケットボールファミリーの皆様により様々な形でバスケットボールを楽しんでいただくために、そして日本のバスケットボールが強くなるために、多様な大会や環境づくりに役立っています。

### 1. チーム加盟 【代表者情報の登録、コーチ、審判とも1名以上の登録が必須】

チームは代表者、コーチ、審判などのスタッフと競技者で成り立っています。まず、年度当初にチームの加盟手続きを行います。その際、代表者、コーチ、審判などの登録を行う。次に競技者の登録を行い、必要な「チーム加盟料」「競技者登録料」をすべて支払うことで、登録が完了します。ライセンスを持っていないコーチや審判を登録することも可能ですが、大会等に参加する場合は、各大会等で定められたコーチライセンスや審判ライセンスの保有が必要になる場合があります。



## 2. 指導者登録

子どもたちにとって安心、安全な環境を構築することやスポーツの楽しさを広げていくこと、さらには人間力・競技力の向上に寄与するために、コーチに必要な知識・能力等を身に付けることを目的にコーチライセンス制度が設けられています。コーチライセンスは各大会等に参加するためだけでなく、普段子どもたちに指導を行うために必要な知識とスキルを学ぶという意味で、子どもに直接指導を行う者は取得する必要があります。ライセンスランクは様々あり、大会参加条件に規定もあるので、それぞれの大会要項等で確認が必要です。

## 3. 競技者登録

子どもたちは、まずチームに所属する必要があります。登録年度の4月1日時点で12歳未満の者とし、「①競技者の主たる居住地から当該チームの主たる活動場所まで安全に無理なく集合して活動し、活動後は安全に無理なく帰宅できる範囲のチームであること」「②競技者の移動中の安全の確保について、当該競技者の保護者が責任をもって行える環境であること」といった条件を満たした者が希望チームに所属できます。その後、インターネット上から活動するすべての競技者について個人登録を行います。U12については、チーム責任者がチーム登録と同時に競技者登録を一括で登録することになります。競技者の所属先チームについては、各チームによって方針や活動内容が様々であるため、あらかじめ見学や体験をするなど、自分にあったチームに所属することが可能です。なお、3年生以下のJBA登録料は無料となっています。

## 4. 競技者の移籍

U12世代は、育成年代であることから長期競技者育成理論(LTAD)に基づき、個々の発達段階に合わせた指導を行うため、長期的な視野で指導環境の構築や指導を行う必要があります。そのため、育成年代の競技者に対する指導環境や活動環境が度々変わることは好ましくないとの考えから、基本的に移籍は想定されていません。ただし、「①転居」や「②人間関係等のトラブル」といった特別な事情による場合には移籍を認めています。特に人間関係のトラブルにおいては、子どもたちだけでなく、コーチや保護者など大人の事情によるトラブルが子どもたちにとって良くない影響を及ぼす可能性があることを想定しており、ハラスメント対策でもあります。

移籍による環境の変化は、子どもたちにとって必ずしも好転するとは限っておらず、居住地域を離れる場合の移籍においては、バスケットボールだけではなく、地域や学校などの「仲間づくり」という観点からも慎重に考えなければなりません。したがって、保護者や子どもたちが所属チームを選択される場合は、様々な観点からよりよい選択が出来るよう、十分に正確な情報提供が必要になり、ましてや大人の事情で子どもたちの環境が悪化するようなことは避けなければなりません。やむなく移籍をする場合においても、移籍元、移籍先チームの状況をしっかり見極めた上で、決して大人の感情的な感覚や目先の結果だけに捕らわれず、子どもにとって楽しくバスケットボールが行える環境を一番に考えることが大切です。

# チーム運営について

チーム規約は作成されているか。

- ・選手の負担にならない時間帯、練習日数となっているか。
- ・問題が発生した際の責任者(チーム責任者、保護者代表)は、規約に明記されているか。
- ・チーム責任者は、指導者？保護者？  
TeamJBA上のチーム責任者と、実際の代表者が異なる場合がある。
- ・指導方針や会計報告など定期的に行われること。

# チーム運営について（会計）

- 集金は銀行振込などで必ず記録が残るようにする。
- 少なくとも年に1回は会計報告を行い、第三者が監査を行うこと。
- 以下の3つの役割は出来る限り別々の担当者とする。
  - 「物品の購入・管理担当」  
チームで必要な備品・グッズなどの補充や、在庫の保管場所を決める。
  - 「お金担当」  
現金や銀行口座の管理、経費発生や物品購入の際に実際にお金を支払う。
  - 「会計記帳担当」  
お金を受け取ったり支払いなどでお金が動いたときに、その記録を会計帳簿に記入する。

実際には人員不足により難しい場合も想定されます。その場合は出来る限り「**お金担当**」だけは独立させるよう努めてください。



楽しみながら競技力を向上させる

# バスケットボールが

# 楽しい!

U12カテゴリー  
指導ガイドライン



詳しくはこちら!!

U12カテゴリー  
指導ガイドライン



## 育成マインドの伝達

U12世代では、子どもたちが「心からバスケットボールが楽しい」と実感させることが重要です。スポーツは勝つことから「楽しさ」「達成感」などを学び成長も見られますが、「子ども」の意思や思考が含まれない「勝ち方」を指導する勝利至上主義では、子どもたちに本来の意味でのバスケットボールの楽しさを伝えることができません。この年代では、子どもたちの将来を見据えた指導が求められます。そのため、コーチは「個の育成の重視」すなわち「育成マインド」を持ち指導に携わることが不可欠とされます。

## 育成世代で大切な考え方!

### 育成世代の目的

- ①子どもたちとそれに関わる全ての人々がバスケットボールを通じて元気になる。
- ②子どもたちがバスケットボールを楽しみ、そして成長できる環境をつくる。
- ③バスケットボールを通じて、子どもたちの育育意識に応じた人材育成に寄与する。

バスケットボールを通じて、  
ライフスキルを学ぼう

### プレーヤー主体で考えてみよう

「楽しさ」を大切にしよう

### 育成世代の基本方針

(個々の全ての大人たちや関係者)

- ①安心安全なバスケットボール環境を実現すること。
- ②バスケットボールを子どもたちがのびのびと取り組める環境をつくること。
- ③子どもたちが試行錯誤しながら、様々な楽しみを知ることができるようにサポートすること。

### 育成世代の目標

- ①大人たちは、健全なバスケットボール環境の在り方について、継続的に話し合う機会を設け、安心安全な練習場のないバスケットボール環境の実現を目指します。
- ②子どもに関わる全ての大人は育成マインドを大切に、行動します。
- ③子どもたちのニーズ(競技志向・レクリエーション志向や発達段階など)に合致し、楽しめるプレー環境(リーグ戦方式、プレータイム確保、3x3の活用)を構築します。

「勝利」の捉え方を考えよう

## プレーヤーのための5つの心得

1 チャレンジ精神を  
忘れず、いつも  
全力を尽くそう

2 ルールや判定に  
したがおう

3 試合や関係する  
すべての人に  
感謝しよう

4 よいマナーを  
心がけよう

5 学習活動も  
一生懸命やろう

## 調和的情熱(ハーモニアス・パッション)で子どもたちと接しよう

アスリート・センタード・コーチングとは、アスリートを中心に置いたコーチングであり、コーチは情熱を持って子どもと接することが求められます。ただし、コーチ自身の名声などを得るための執着的情熱(オブセッシブ・パッション)では、プレーヤーの存在を無視した一方的なコーチングにつながります。アスリート・センタード・コーチングに求められる情熱は、プレーヤーとコーチがお互いにしっかりとコミュニケーションを取り、尊重、信頼し合うことです。さらなる向上を目標として、共に努力する調和的情熱(ハーモニアス・パッション)で、子どもたちと接することが重要です。

GOOD! やってほしいこと

- はげます
- 元気づける
- 褒める
- 引きだす・聞く
- 判断させる
- 主体性を育てる

BAD! やってほしくないこと

- 怒る
- 怒鳴りつける
- 指示ばかりする
- 威圧する
- 判断させない
- 支配する

